

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	地球観測衛星システムの開発に必要な経費(復興関連事業)		担当部局庁	研究開発局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	宇宙開発利用課		宇宙開発利用課長 佐伯 浩治		
会計区分	一般会計		施策名	X-3 環境分野の研究開発の重点的推進				
根拠法令(具体的な条項も記載)	宇宙基本法 独立行政法人宇宙航空研究開発機構法第18条第1項		関係する計画、通知等	宇宙基本計画 独立行政法人宇宙航空研究開発機構中期計画				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	東日本大震災により(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)の筑波宇宙センター等の施設・試験設備及び開発中の衛星等が一部被害を受け、職員の安全な職務遂行及び人工衛星・ロケットの開発業務に大きな影響を与えた。そのため、本事業では被害を受けた開発中の衛星等の修繕を行い、本来の研究開発業務を遂行可能な状態に復旧する。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)が開発中で震災時に試験中であった人工衛星に対して汚染除去や必要な修繕を行い、通常の開発工程へ復帰させる。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額(単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算	0	0	0	0		
		補正予算	0	0	99	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	0	0	99	0	0	
	執行額	0	0	99				
執行率(%)	-	-	100.0%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)	
	東日本大震災で被災した衛星・センサや校正用機器等の復旧を実施し、本来の業務を遂行可能な状態に復旧させる。	成果実績	—	—	—	東日本大震災で被災した開発中の衛星・センサの復旧及び運用中の衛星の校正用機器等の復旧を平成23年度中に完了したことにより、平成23年度以降の衛星・センサの開発、打上げ、観測データの校正等が当初の計画どおり実施可能となった。	—	
活動指標及び活動実績(アウトプット)	東日本大震災で被災した開発中の衛星・センサの復旧及び運用中の衛星の校正用機器等の復旧の状況	活動実績(当初見込み)	—	—	—	○水循環変動観測衛星「しずく」(GCOM-W)のフライトモデルの震災の粉塵による汚染への対策を実施。 ○雲エアロゾル放射ミッション/雲プロファイリングレーダ(EarthCARE/CPR)のシステム構造モデル及びエンジニアリングモデルの修繕を実施。 ○温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の校正用機器及び運用設備の修繕を実施。	—	
	単位当たりコスト	(独)宇宙航空研究開発機構が行う衛星の開発・打上げ・運用・利用等を総合的に実施するうえで必要な補助金のため、単位当たりコストの算出は困難	算出根拠	—				
平成24年度内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	計							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	地球観測衛星については、宇宙開発戦略本部による「当面の宇宙政策の推進について」(平成22年8月27日)において、国内外の災害監視、地球環境保全等への対処のため地球観測衛星網の構築を推進することが明記されており、政策的に優先度の高い事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	△	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	宇宙開発の特殊性により一定の一者応札が避けられないものもあるが、随意契約事前確認公募を含め、どうしても避けられない契約以外の契約については、引き続き条件等を見直し、競争化を進めることが必要である。
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	東日本大震災で被害を受けた開発中の衛星やセンサの修繕等を確実に実施しており、23年度以降の開発、打上げ、観測データの校正等を当初の計画どおり実施できるよう復旧している。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		<p>○契約については、真にやむを得ないものをのぞき、原則として一般競争入札等によることとしており、随意契約見直し計画を策定し、随意契約の割合を着実に低下させる取組を行っている。また、一般競争入札等により契約する場合であっても、真に競争性、透明性が確保されるよう留意することとしており、一者応札となった案件について仕様書を受領した企業にアンケート調査を行い、仕様書の要求事項の明確化、適切な履行期間の確保などの改善を進めている。</p> <p>○平成23年度中に東日本大震災で受けた被害の復旧を完了し、衛星の打ち上げ計画への影響を最小限にとどめている。</p>	
予算監視・効率化チームの所見			
	0	復興関連事業のため、平成23年度第3次補正予算に計上した事業であり、平成23年度をもって廃止している。	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
		－	
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p>【関係する計画、通知等のURL】</p> <p>独立行政法人宇宙航空研究開発機構第2期中期計画 http://www.jaxa.jp/about/plan/pdf/plan_02_24.pdf</p> <p>宇宙基本計画 http://www.kantei.go.jp/jp/singi/utyuu/keikaku/keikaku_honbun.pdf</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー		平成23年行政事業レビュー	

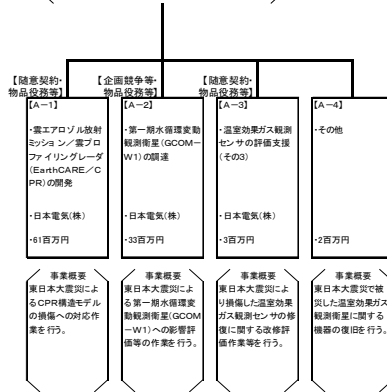
文部科学省
99百万円

事業概要
独立行政法人宇宙航空研究開発機構及び我が国の法人が行う地球観測衛星及び地上設備の研究開発並びに打上げ等に係る事業の実施に必要な金額を補助。

[交付]

【A】 地球観測衛星開発事業
(独)宇宙航空研究開発機構
99百万円

事業概要
衛星等を活用した陸域・海域観測、地球環境観測、高度情報通信及び測位による宇宙開発利用の推進



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

支出先上位10者リスト

A.地球観測衛星開発事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本電気(株)	東日本大震災によるCPR構造モデルの損傷への対応作業を行う。	61	随意契約	—
2	日本電気(株)	東日本大震災による第一期水循環変動観測衛星(GCOM-W1)への影響評価等の作業を行う。	33	2	—
3	日本電気(株)	東日本大震災により損傷した温室効果ガス観測センサの修復に関する改修評価作業等を行う。	3	随意契約	—
4	-	東日本大震災で被災した温室効果ガス観測衛星に関する機器の復旧を行う。	2	-	—
5	-	-	-	-	—
6	-	-	-	-	—
7	-	-	-	-	—
8	-	-	-	-	—
9	-	-	-	-	—
10	-	-	-	-	—

※同種の他の契約の予定価格を類推させるおそれがあるため非公表としている。